



OPEN THE DOOR TO YOUR FUTURE
外国留学中間レポート



留学中のみんなから、中間レポートが届きました!



2018 Fall 発行



外国留学中間レポート 2018 FALL

目次

アメリカ	ピッツバーグ大学			
		マネジメント創造学部特別留学コース 2年	下辻 佳乃	2
		マネジメント創造学部特別留学コース 2年	吉田 善太	3
カナダ	ビクトリア大学			
		マネジメント創造学部マネジメントコース 3年	河本 尚子	4
		文学部日本語日本文学科 4年	辻 知花子	5
		マネジメント創造学部マネジメントコース 3年	津田 真奈	6
		文学部英語英米文学科 3年	中谷 衣光子	7
		経営学部経営学科 2年	黒野 結加	8
		文学部英語英米文学科 3年	藤木 翔真	9
		文学部英語英米文学科 3年	前垣 早紀	10
	カールトン大学			
		文学部英語英米文学科 3年	泉本 健太	11
		経営学部経営学科 3年	松井 瑞輝	12
	ケベック大学モントリオール校			
		文学部社会学科 3年	和田 雄志	13
イギリス	リーズ大学			
		マネジメント創造学部マネジメントコース 3年	荒木 ひかり	14
		マネジメント創造学部マネジメントコース 3年	横山 幸俊	15
		マネジメント創造学部マネジメントコース 3年	原田 理央	17
		マネジメント創造学部特別留学コース 2年	安藤 紬	18
フランス	リヨン第三大学			
		経営学部経営学科 3年	宮原 優哉	19
韓国	漢陽大学			
		文学部人間科学科 3年	天野 沙都	20
		文学部人間科学科 3年	熊野 世梨	21
	東義大学			
		経済学部経済学科 4年	吉見 哲也	22
中国	厦門大学			
		経営学部経営学科 2年	浅尾 渚	23

ピッツバーグ大学（アメリカ）
マネジメント創造学部マネジメント創造学科特別留学コース 2年 下辻 佳乃
【交換留学】留学期間：2018年8月～2019年5月



甲南大学からピッツバーグ大学への初めての交換留学生としてアメリカに来てから早くも一か月半が経ちました。来る前はピッツバーグ大学に関するインフォメーションも他の留学先の大学に比べて非常に少なく、すべてが手探りのままピッツバーグ大学に決めてしまったため、不安でいっぱいでしたが、何とかここまでこられた感じです。今のところは特にトラブルに巻き込まれることもなく、健康に毎日を過ごしています。

私は出発前日本にいるときから、ピッツバーグ大学からの留学生と交流

するためにピッツサポーターをしていました。そのおかげで、現地に着いてから今までずっとその時からの友達には助けられています。週末に遊びに行ったり、友達の家で日本のご飯を作って食べたりしています。その子たちが友達をまた紹介してくれるので、どんどん知っている人が増えていくし、同じメジャーの友達も紹介してもらい、テスト前には一緒に勉強したりしています。授業内容も英語だと100%理解するのはまだ難しく、ネイティブの生徒と一緒に勉強することでテスト対策をしているつもりです。仲良くなれるし、わからないところは教えあえるので、一緒に勉強できる友達を作るのは良いと思います。

授業は予習がとにかく大変で平日の夜はほとんど毎日図書館に行って勉強しています。日本人の友達と一緒にいくことも多いですが、一人でいくことも多いです。ほかにも勉強している生徒がたくさんいるし、勉強に集中できるスペースが確保されているので集中できます。予習を完璧にできていれば、授業中に発表もできるし、内容や例の理解もスムーズにできます。

個人的には ASA (Asian Student Alliance) と呼ばれるクラブに入って、いろんなイベントに行ったり、上級生と下級生をペアアップしてくれるプログラムに参加したりして、入ってよかったなと思っています。アジア系アメリカ人向けのクラブなのですが、日本人留学生の私のことも快く迎えてくれて、ホームシック真っ只中の私にとってはアジア系のコミュニティにいると落ち着きます。もう一つは SIB (Society for International Business) と呼ばれるクラブにも参加しています。こちらはもっとまじめで授業の延長のようなクラブなのですが、自分の将来の夢につながるようなインフォメーションを得られたり、ディスカッションに参加できたり、ASA とは違う楽しさがあります。



ピッツバーグ大学（アメリカ）
マネジメント創造学部マネジメント創造学科特別留学コース 2年 吉田 善太
【交換留学】留学期間：2018年8月～2019年5月



8月16日にここピッツバーグの地に降り立ってから約二ヶ月の月日が経とうとしています。時間が過ぎるのはとても早く、Fall semester もあと二ヶ月で終了してしまうと思えば、少し寂しいですが、そんな寂しさも感じさせてくれないほど、ピッツバーグでの生活は充実しています。勉強面で言えば、大学の勉強は忙しいです。マネジメント創造学部で倍の単位数を履修していても、忙しさはこちらとあまり変わらないかもしれません。アメリカ人にとって英語は第一言語ですが、私たち日本人にとっては第二言語にすぎません、同じことを学ぼうとしても、私たち日本人は、彼らのようにすんなりと英語を理解することはできません。当たり前のことですが、それが辛く、不平等に感じる時もあります。私は今期、ESLを3クラスと Introduction to Marketing というクラスを受講していますが、自分の英語力のなさを悔しく思う瞬間は毎日あります。ESL のクラスでは中国人が大多数を占め、その多くが私よりも、読解力、単語、多くの点において優れており、毎日彼らから学ぶことばかりです。また、マーケティングの授業では、とにかく先生の話す英語が早く、日本人の私からすれば内容を理解することは至難の技です。授業が始まった当初の私は、日本語で

この授業を受講できたら、もっと点数が取れて、もっといい成績が取れるのだろうと、毎日呟いていましたが、そんなことを言っても何も解決しません。

約二ヶ月がたった今は、毎日が充実していて、一言で言えば楽しいです。多くの日本人留学生が抱く、日本に帰りたいという気持ちは私には全くありません。それは、授業に慣れたからでもなく、英語が話せるようになったからでもありません。無理にアメリカの生活や文化に適應する必要がないと考えるようになったからです。自分は自分なのだ、留学で何をやるかは人それぞれなのだと思えるようになったからこそ、多くのことを柔軟に吸収して、処理できる力が向上したように思います。多くの日本人留学生は留学に行く目的を堅く考えすぎているように私は感じます。留学は勉強をしに行くだけのものではありません。勉強なら日本でもどこでもできます。私は留学というものは、友達を作ったり、日本では経験できないことを経験したり、いろんなことを知ったり、一種の冒険のようなものだと考えるようになりました。留学も残すところ、あと半年を切り、この充実した生活が終わってしまうのは寂しいものではありますが、残りの期間でもっと、多くのことを吸収して、自分を豊かな人間にすることを目指して努力していきたいと思っています。



ビクトリア大学（カナダ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科マネジメントコース 3年 河本 尚子

【語学プラス交換留学】留学期間：2018年4月～12月



私が留学を決意した理由は、海外での生活を通して自分の興味のある分野が明確になるのではないかと思ったからです。特に後期の9月から始まる交換留学を楽しみに、4月から留学をしています。

ビクトリアはとても自然がきれいな場所で私が滞在していたホストファミリーの家からは毎日、鹿、リス、ウサギ、イーグル、カワウソ等、様々な動物と会うことのできる素敵な場所でした。また週末はサイクリングやハイキング、ビーチに出かけたりと、自然を堪能する生活を送っていました。

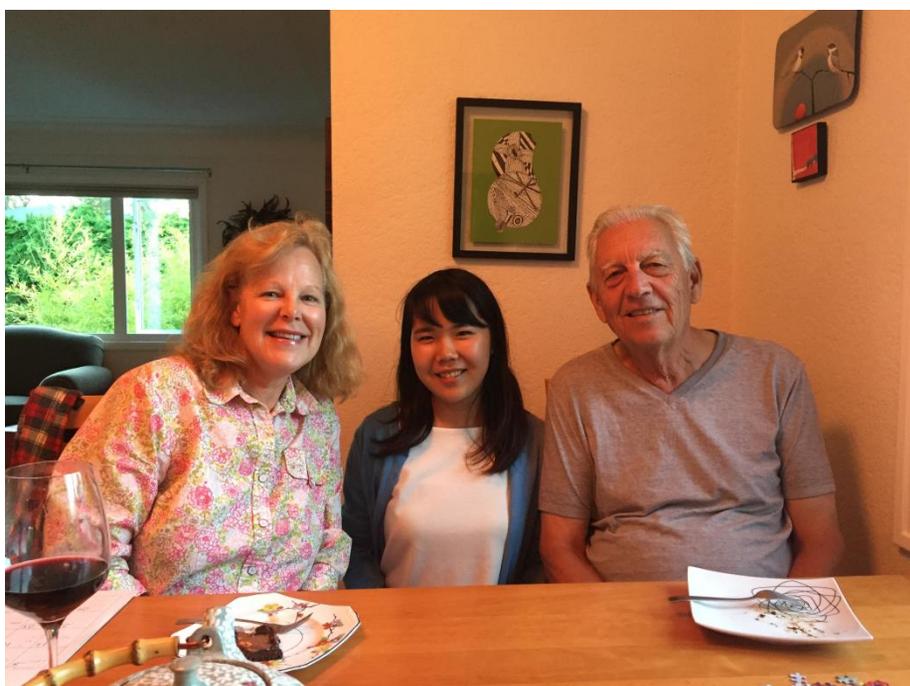
前期の語学を学んでいる間は、毎日を楽しみつつ後期から専門科目を履修する時に備えて英語のレベルを上げることに必死でした。特にスピーキングに自信がなかったのが現地のボランティアの人やホストファミリーとたくさん会話することに心がけました。たくさんホストファミリーとコミュニケーションをとっている間に、カナダのお父さんとお母さんの様な存在になり、彼らは心の支えになっています。寮に移った今でも気にかけてくださり時々会っています。語学学校では中国、韓国人が特に多く、近隣の国ですがあまり知らなかったのが、彼らの国についてたくさん知ることができ興味深かったです。

後期に入り専門科目を学ぶようになり、語学を学んでいた時との英語のレベルの違いに始めは圧倒されるばかりで、自分の英語力に自信を無くしてしまいました。しかし、ずっと海外の大学で授業を受けることに憧れを抱いていたので、しっかり成長して乗り切ろうと毎日奮闘しています。授業では大量のリーディングとレポートを短期間にこなさなければならず、日本ではそのような経験がなかったのでとても大変です。しかし予習を

した分だけ授業の理解が深まりさらにたくさん知識を得ることができるため、大変でありながらも充実した毎日を送っています。また教授に質問があれば質問したり、クラスメイトと試験勉強を一緒にしたり、ノートを共有しあったりと周りに支えられながら今日に至っています。ミッドタームも一旦終わり、どう授業についていけば良いのかペースを掴めてきたので何かコミュニティに参加し、現地の学生ともっとコミュニケーションをとり、自分の価値観を拡げていきたいと思っています。



ビクトリア大学（カナダ）
文学部日本語日本文学科 4年 辻 知花子
【語学プラス交換留学】 留学期間：2018年4月～12月



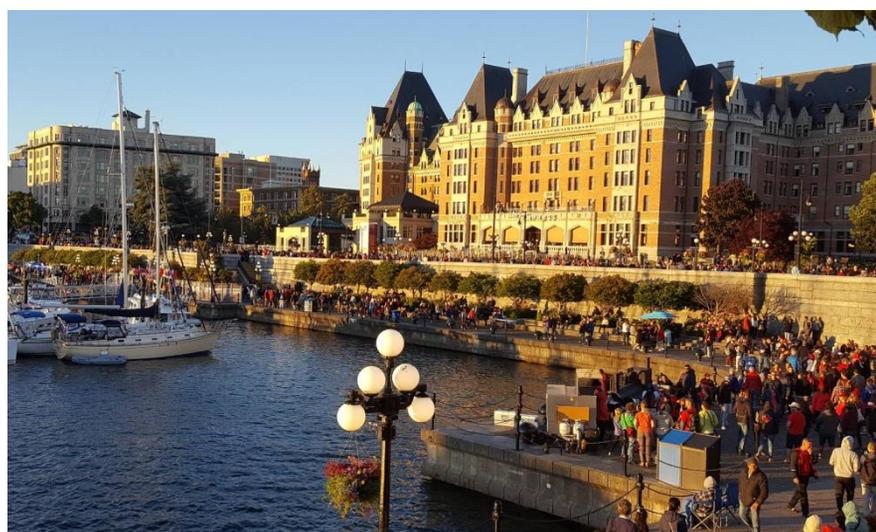
カナダにきて半年が過ぎました。時の流れが早く、信じられません。ビクトリアは気候もよく穏やかな美しい都市で、留学先をビクトリアに決めて良かったと心から思います。留学当初は慣れない海外生活や今後への不安、英語で伝えたいことが伝えられないストレスなどで辛かったのを覚えています。しかし今となってはそれも良い思い出で、その頃の自分を懐かしく感じます。

4月から8月は大学付属の語学学校で英語を学びました。私のクラスは日本・中国・韓国・メキシコ・サウジアラビア・トルコと様々な国籍の人が集まり、

年齢も年上の人が多かったです。授業内でのディスカッションでは、クラスメートたちはどんなトピックでもしっかりと自分の意見を表明することができており、その積極性に毎回驚かされました。彼らと話す上でたくさんの刺激をもらい、日本や日本人としての自分を考え直すきっかけにもなりました。授業外でも、毎週末誰かの家に集まったり出かけたりするなど本当に仲良くなることができました。4月から3ヶ月間滞在したホームステイ先のホストマザーは、毎週色々なところに連れて行ってくれ、いつも私のことを気にかけてくれました。寮に移った今でも連絡を取り合い、頻繁に夕食などに誘ってくれます。この留学生活では様々な人に支えられて過ごすことができおり、感謝の気持ちでいっぱいです。

9月からは交換留学が始まり、現地学生とともに授業を受けています。どの専門科目も大変興味深く、海外の大学で学べることの嬉しさを感じています。しかしそれ以上に、語学学校の時とは環境が全く異なり、ハイレベル・ハイスピードで、英語で何かを学ぶというのは想像以上に大変です。授業内容を理解するのも難しく、毎日必死で勉強しています。授業ごとに出される膨大な量の予習のリーディングや、授業中の生徒の積極的な発言、毎日夜遅くまで図書館で勉強している学生の姿など、日本での大学生活との違いに考えさせられます。

留学生活も残り3ヶ月を切りました。勉強はもちろんのこと、それ以外にも様々なことに挑戦し吸収し、悔いの残らないよう過ごしていきたいと思っています。



ビクトリア大学（カナダ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科マネジメントコース 3年 津田 真奈

【語学プラス交換留学】留学期間：2018年4月～12月



初めの3か月は語学の授業を取りましたが、このプログラムはかなり厳しく、毎日のように沢山の課題があり、テストやプレゼンテーションも毎週ありました。授業はレベルによっても違いますが私のクラスではライティングとリーディングに特に重きを置いていたように思います。授業内でディスカッションが毎日あるので、クラスメートと話をする機会が沢山あり、とても仲良くなりました。今でも連絡を取り合うほどです。



3か月のプログラムが終わった後は約1カ月のサマープログラムを受講しました。このプログラムは初めの3か月とは全く違い、厳しい授業の雰囲気というよりは、スピーキングに重きを置いており、できる限り沢山発言をしよう！というような楽しい雰囲気でした。授業が終わった後の正午から夜までは、UVicの生徒もしくは卒業生が企画してくれるアクティビティに毎日参加していました。

9月以降は実際に現地の生徒が受けている大学の授業を受講しました。初めは語学のプログラムとのギャップに驚かされました。教授は語学の先生と比べ物にならないほど早く話すし、難しい言い回しや知らない単語が沢山出てきました。留学生だからと言って特別扱いはされません。自分から学ぼうとしない限り置いて行かれるだけだと感じました。私は授業の後毎回のように教授のオフィスに行き、質問も沢山していくうちにだんだんと自分なりに授業についていくための方法を見つけることができました。現地の大学の授業を受けることはもちろん簡単ではありませんが成長できることには間違いありません。

私から一つアドバイスとしては、留学に行くなら長期留学に挑戦してほしいです。なぜなら長期間日本を離れることで学べるものが沢山あるからです。もちろん9か月は短くありません、時には帰りたくなることだって諦めてしまいたくなることだってあります。それでもあきらめず努力し続け留学を終えた時、今まで自分の中になかったくらいの自信がつき、それが自分のこれからの人生に生き続けます。私は、9か月の間に3家族のホームステイと寮を経験しました。同じカナダでも違う家族と共同で暮らすことで新しい発見が数えきれないほどありました。何度も環境が変わり、そこに適応していく中で悩むことももちろん沢山ありましたが、長期留学だからこそできた経験で、長期留学を選んでよかったと心の底から思います。そして、ビクトリア大学は勉強するにはとてもいい場所です。気温も日本とさほど変わらずカナダの中では暖かいし、都会というよりは自然がいっぱいで静かな町です。ビクトリアの人とはとても親切だし、治安はそれほど悪くありません。とても落ち着いた街なので過ごしやすく、勉強にも集中できると思います。



ビクトリア大学（カナダ）
文学部英語英米文学科 3年 中谷 衣光子
【語学プラス交換留学】留学期間：2018年4月～12月



私は現在ビクトリア大学に留学しており、その生活もう半年が経とうとしています。4月からの生活を振り返ってみると自分の中で大きく変化した点がいくつかあることに気付かされます。

一つ目は英語を話すことを躊躇しなくなった点です。甲南大学でも英語英米文学科専攻のため英語で授業を受けることもあります。やはり自分の英語力に対する自信の無さと英語を話すことに対する恥ずかしさが先行してしまい、授業内でも英語を十分に話せない経験をしたことが何度かあります。しかしビクトリア大学の語学プログラムでは英語力別にク

ラス分けをするため皆英語力が同じレベルの人達と同じクラスになります。たとえ自分の英語が未熟であっても自分の間違いから他のクラスメイト達も学べることがあり、またその反対もあるため英語を間違えることに対する恐怖心を克服したように思います。

二つ目は新しい人々との出会いや新しい生活を楽しむようになった点です。4月にビクトリアに来て学校が始まるまでの間はホームステイでの生活や授業、クラスに対する不安で押しつぶされそうな思いでした。しかし韓国やメキシコ、サウジアラビア等から来たクラスメイト達はそれぞれ文化の違いがありながらも互いがそれを尊重し合い、また多文化や言語を学び合える良い人々で私の留学生活を楽しいものにしてくれて当初感じていた不安はすぐに消え去りました。6月いっぱいでのそのプログラムは終了しクラスメイト達はほとんど帰国しましたが、7月からの新しいプログラムが始まる際には4月に感じたような不安はなく、むしろ新しい出会いを嬉々として待ち受けることができました。また、その7月からのプログラムでは現地のカナダ人の生徒たちがアクティビティに参加をしていたので生きた英語を楽しんで学べるほか、カナダの文化等についても知ることができました。



当然ながら留学生活は楽しいことばかりという訳にはいかず、ホームステイ先でのちょっとしたトラブルや課題の量に圧倒されるときもありました。ですがそれも含めてビクトリアで経験したことは自分の英語力を上達させるのに役立つことばかりであったと思います。

現在では語学プログラム期間を終え、9月よりビクトリア大学での専門教育科目を履修し始めています。語学プログラムに比べて授業の難易度は格段に上がっていますが、自分の英語力向上と専門科目の知識を深められるのは確かなことだと実感しています。



ビクトリア大学（カナダ）
経営学部経営学科 2年 黒野 結加
【交換留学】留学期間：2018年8月～2019年4月



カナダで生活し始めてちょうど2カ月が過ぎました。この2カ月を振り返ると、本当に充実した毎日で、毎日が楽しく新鮮なことだらけで、あっという間でした。

カナダに来る前は、友達ができるかな、勉強にはついていけるかなと、不安な気持ちでいっぱいでした。けれど、ビクトリア大学から交換留学で甲南大学に来ていた多くの学生と日本にいる時に仲良くしていたおかげで、留学前後で学校のことやカナダでの生活について色々とサポートしてもらい、不安な気持ちも知らぬ間になくなっていました。またその友達の友達を紹介してもらったりと、どんどん友達の輪が広がり、彼らのおかげで沢山の友達をカナダに来てすぐ作ることができました。本当に彼らに感謝の気持ちでいっぱいです。



レイクルイーズにて

初めの1か月は、ビクトリア大学にあるELCという語学のプログラムを3週間受けました。そのプログラムを受けている学生はほとんどがアジア人で、80%以上が日本人だったと思います。授業は全て英語で、基本的な文法、感情表現、またカナダの先住民などを、ディスカッションを交えながら学びました。私が仲良くなった友達には韓国人や中国人の子が多く、日本人の友達とも英語で話すようにしていたので、そこで英語を話すことへの抵抗は大分なくなったかと思います。

9月に入り、いよいよ本当の現地学生に交じって授業を受けるようになり、初めの2, 3日は友達作りに苦労しましたが、学校が始まって1, 2週間は友達作りのイベントがよくあったので、それに頻繁に参加したおかげで今では友達も多くなりました。けれどやはり言語の壁は高いです。友達とグループで話していても半分ほどしか理解できていません。



UVic フィリピンクラブの集まりにて

みんなが話に盛り上がっているのに、自分だけついていけない時が一番つらいです。授業でも、3分の1以上先生の言っていることが理解できていない状態です。また、多くの学生が自分から発言し、それに圧倒される毎日です。今後残りの7カ月で、今のこの状況を大きく変えることができるように、毎日毎日を大切に頑張っていこうと思います。

ビクトリア大学（カナダ）
文学部英語英米文学科 3年 藤木 翔真
【交換留学】留学期間：2018年8月～2019年4月

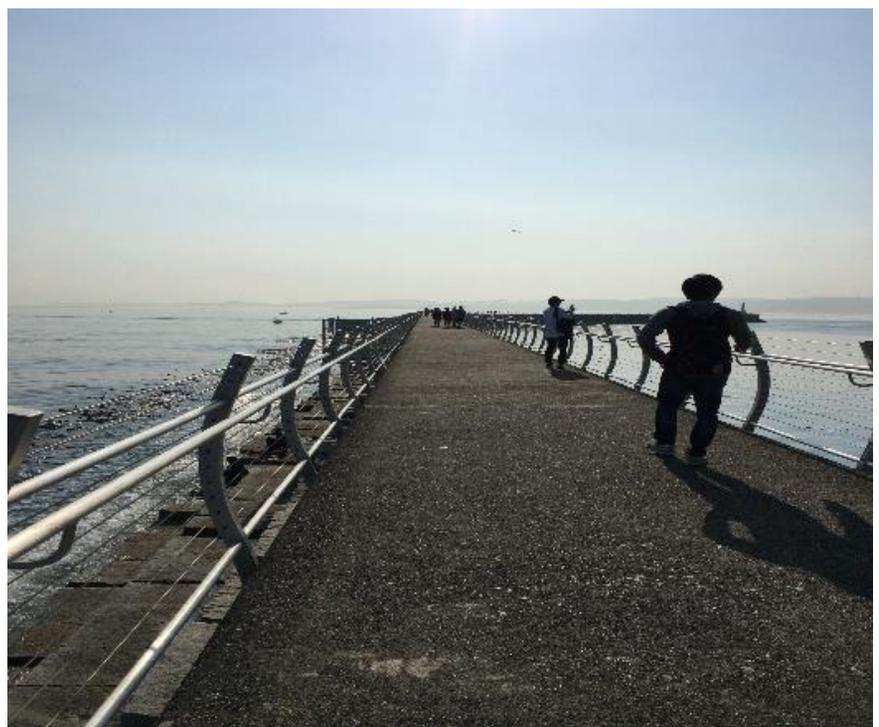


私のプログラムでは、最初の3週間は語学学校での授業でした。私のクラスは日本人、韓国人、中国人の生徒が多く、国際色豊かなクラスで日本人以外の生徒と会話する時は、必然的に英語で会話しないといけないので英語を話すことへのモチベーションが自然と上がっていきました。彼らは非常にフレンドリーと一緒にサッカーや語学学校のアクティビティなどをして仲良くなりました。彼らと話すうちに、彼らの文化を詳しく知ることが出来たのと同時に、自分の中の彼らに対する偏見や固定概念に気づかされ、それを取り払うことが出来たのはこの

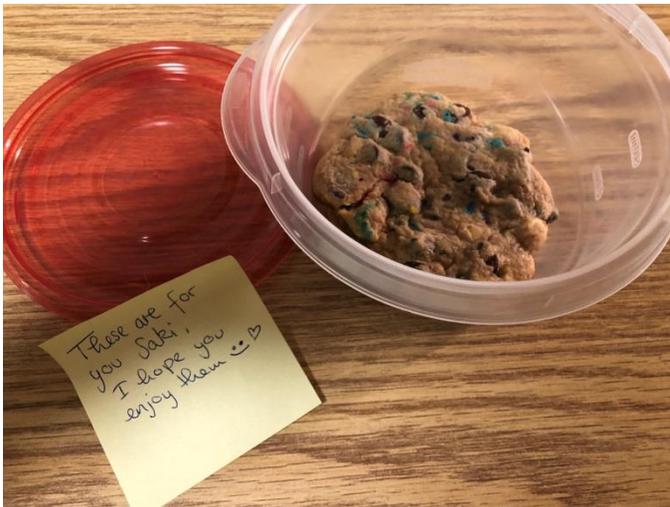
留学の中で一番価値があることだと感じました。加えて、日本を出て他の文化に触れ、自分たちの文化を改めて確認できることが非常に重要であることに気づかされました。また、先生方も大変親身になって、私が話そうとすることを理解しようとして下さいました。それらのおかげで、初めての異国の地で緊張していたのですが、リラックスして暮らせることが出来て大変感謝しています。

9月に入ってから学部での授業が始まりました。語学学校では先生のおっしゃっていたことは理解できたのですが、学部の授業では全くと言っていい程理解できませんでした。というのも、話すスピードが2倍～3倍も語学学校の時と比べて早いと感じるのと、授業内で使われる単語は難しいものや見たことのないものが多いからでした。私は、授業が始まった1週間はとても不安を感じましたが、授業で知り合った友達に分からないところを教えてもらったり、教授に直接聞きに行ったりして何とかついて行くことが出来そうです。また、こちらの課題の量については、日本の大学と比べて非常に多く、常に頭の片隅には課題のことがある状態です。加えて、当たり前のことですが、全て英語で書いて提出しないといけないのでとても大変です。

もう2か月が経とうとしているのですが、毎日が新鮮で日本との文化の違いにいつも驚かされます。これからまだまだ新しい発見や苦勞に圧倒されながらも生活していくことに楽しさと期待を感じています。



ビクトリア大学（カナダ）
文学部英語英米文学科 3年 前垣 早紀
【交換留学】留学期間：2018年8月～2019年4月



カナダにきて2か月がたち、こちらの生活にも慣れてきました。今回の留学は私にとって初めての留学になります。

わたしの通う UVic があるビクトリアは山と海に囲まれた自然豊かな場所です。町には至る所に花が植えられておりとても華やかできれいな街です。また、人がとても親切でバスを降りるときは必ず運転手にお礼を言ったり、道を尋ねると必ず教えてくれます。また海が近く魚介類が有名なので寿司屋さんなどのレストランがとても多いです。なので休日はランチに行ったり、普段は自炊をしているので友達とスーパーに買い物に出かけたりしています。



授業は日本での専攻である言語学の他に日本では履修することができない cultural studies や Pacific Asian Studies を履修しています。授業中、英語が早く時々聞き取れなかったり、聞き逃したりすることもあります。隣の席の人に聞いたり、授業後先生に質問すると必ず親身に教えてくれます。またこちらは日本に比べて課題やテストが多いので、わからないところは授業の友達や専攻の同じクラブの友達に教えてもら

っています。ただ、課題によって英語で教科書や文献を読むことが多くなったことで、少しずつですが慣れてきました。こちらで授業をうけて最初に思ったのは先生も生徒もとても授業に積極的だということです。またカナダの学生はわからないことがあるとすぐに質問し、そしてときには授業中に内容に関して先生と納得するまで議論をしたりすることもあり、とても刺激的です。

私は学校の cluster という4人でシェアハウスをする寮に住んでいます。ルームメイトは日本人とドイツ人の留学生とカナダ人の現地学生です。みんなとてもやさしく、フレンドリーで毎日楽しく過ごしています。最近ではお互いにクッキーやスコーンを焼いて味見してもらったり、プレゼントしたりしています。最初はカナダの子とドイツの子の会話が早く、不安でしたが、思い切ってもう少しゆっくり話してくれるようお願いし、今では楽しく話せるようになりました。最近ではハロウィンが近いので仮装や部屋の飾りつけの相談をしたりしています。

また、私は UVic の language partner に登録しています。週に1回ネイティブの生徒と international の生徒の4人が集まって英語で会話して、speaking の練習をします。Partner の人はとても親切で大学内だけでなく、ビクトリアを案内してくれたりもし、とても楽しいです。

カナダにきて2か月まだまだ英語が聞き取れなかったり、言いたいことが言えないこともあります。周りに助けられながら、積極的に英語を使い学んでいきたいと思っています。



カールトン大学（カナダ）
文学部英語英米文学科 3年 泉本 健太
【交換留学】留学期間：2018年9月～2019年4月



留学で半年間終えて学ばなければいけないこと自分に足りないところなど色々なことが見えてきました。最初は、留学に行く前には留学ってただ国に行って勉強するものだと思っていました。想像していた留学生活とは違うことが多くあります。最初にまず友達作りに関して。友達作りは最初は困りませんでした。自分から話しかけるもしくは、友達が友達を呼ぶと行った感じでしょうか、そのような感じで連鎖的にできていきました。けど、問題はそれから後です。何が問題かというと、日本でも感じるように、人と

長く友好関係を保っていかなければなりません。しかも海外、全く文化も違うし、喋る言葉も全く違う、しんどい日がありました。そこからは本当に孤独と戦いながらも、自分の居場所を必死に探す日々というのが一定の間続きました。その結果、日本に興味を持ってきている人たちやその他仲の良い、わかり会える友達が作れてきたように感じます。次に、ルームメイトの問題というのがありました。大した問題ではないのですが、ストレスというのは必ず感じてきます。未だに日本に帰りたい欲は全くありませんが、一緒に住むというのは本当にしんどいことだと思いました。まずルームメイトを持って始めて学んだことは、相手をリスペクトすること。文化は少なからず違います。言葉は当たり前違います。そんなことは承知の上でこの道を選びました。けど、自分が気に入らないことを言っているのかという葛藤が自分の中で始まります。自分にとって、これは大した問題ではないかもしれませんが、向こうにとってはそれが大きな問題になりかねないということもあります。最終的には解決しましたが、それはルームメイトの協力があってのことでした。本当に感謝する毎日です。日本人に欠けているところってそこなのかなと思いつつその壁を早くぶち壊せたらなと思っています。なので最近はYouTube や本を読んだり時々人と話したりして、自分の時間を調整しながら自分のマネジメントに励んでおります。留学という枠ではなく、今後の人生に関わってくるのでこれは真剣にやろうかなと思っています。



カールトン大学（カナダ）
経営学部経営学科 3年 松井 瑞輝
【交換留学】留学期間：2018年9月～2019年4月



カナダに来て早くも2ヶ月が過ぎました。この留学が私の最初の海外進出で、初めての一人暮らしで、何もかもが新鮮なことだらけでした。まずトロントでの入国審査ではもちろん日本語が通じないため、最初の緊張点でした。テレビの画面上でだけしか見たことがなかった税関を目の前にすると緊張しました。そこから自分の英語力のなさを痛感させられることが続きました。大学についてからもゆっくりと話してもらわないと聞き取れないことが多かったです。そのため、最初の方はあんまり話すことを厭いませんでした。しかし、授業が始まると英語を話さないといけない環境に自分を置くことができるため、自然と話すことが嫌ではなくなりました。今では友達もたくさんできて毎日を楽しんでいます。海外の人たちはアウトドアを好む人たちが多くパーティーや買い物などにもよく出かけます。授業に関しては日本で習った内容の授業を今は受けているため理解はできています。ですが、たまに日本と方法が違っていたり考え方が異なっていたりすることもあり苦労することもあります。その度に教授のところに質問をしに行くことでより理解を深められ、来た時よりも耳が英語に慣れてきたことを実感しています。また、ルームメイトもいい人たちで仲良くしています。私が聞き取れなかったところなどを分かるまで繰り返して話してくれたり親切です。カールトンでは、CUJAという Carleton University Japanese Association にも所属しており日本に興味を持ってくれている人たちと交流をし、イベントを開いたりハイキングに行ったりしました。日本人以上に日本のことを知ってくれている人たちにも会いました。さらに、私は部活にも所属しています。留学のために一度やめた水泳をカールトン大学でまた始めました。運動をする機会があんまりないためいい時間になっています。強制度が強過ぎないため、自分の日程に合わせて参加できるのでとても充実しています。時間の管理も自然とできるようになってきています。今は、勉強だけの留学でも遊びだけの留学でもなくどちらも楽しめるように頑張っています

ケベック大学モントリオール校（カナダ）
文学部社会学科 3年 和田 雄志
【交換留学】留学期間：2018年8月～12月

モントリオールにきて、もうすぐ2か月が経とうとしています。はじめは暑くて大変だったのに、今ではどんなコートを買おうか悩んでいます。

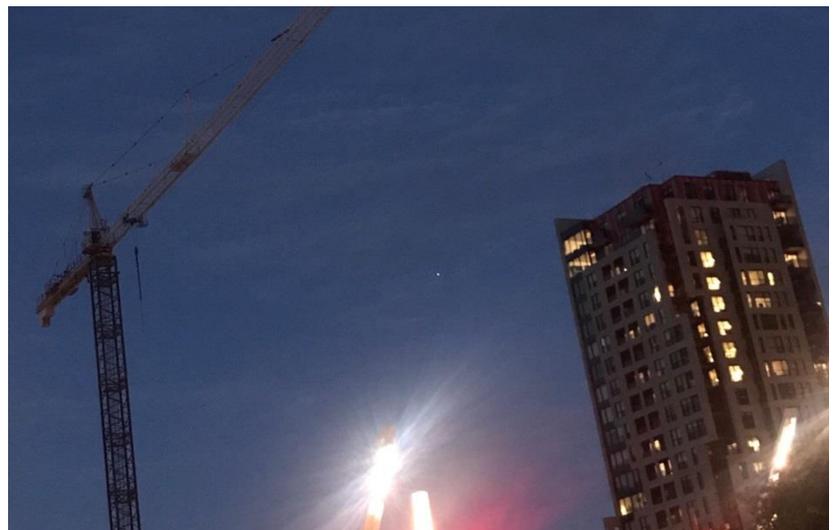
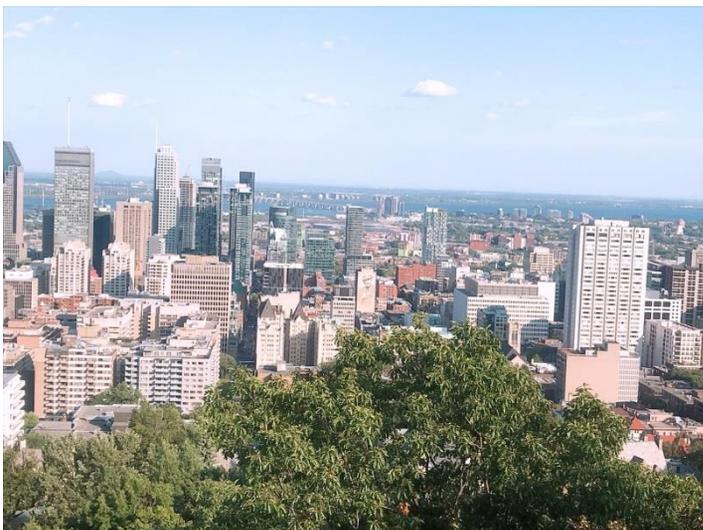
生活面について、物価が日本よりほんの少し高いような気がします。また、近所のマクドナルドに行ったとき、ハンバーガー単品ひとつで800円近くしたのは驚きでした。毎週土曜日は自分が責任者になったということもあり、言語交換会という大学内の小さなイベントに参加しています。UQAMに留学している日本人学生と、日本語を学んでいるUQAMの学生が集まるイベントです。楽しく話をしながら日本のことを教えたり、フランス語やケベックの文化を学べるので毎週の楽しみの一つでもあります。

学業面について、今僕は、フランス語のクラスを4つ取っています。月水金にクラスが入っていて、金曜日は二つあります。今はもう大丈夫ですが、1コマ180分なので最初の方は慣れませんでした。クラスはどれも難易度が高く、付いていくのに必死です。しかし、いろんな年齢層の人、様々な出身の人たちがみんなやる気をもって授業に参加しているので、自分のモチベーションアップにつながっています。カナダに行く前は、「一番楽しいクラスはコミュニケーションのクラスなんだろうな」と思っていたのですが、自分でもびっくりなことに文法の授業が思っていたより興味をもって受講できています。甲南大学でのフランス語のクラスで抽選に落ちたせいもあり、フランス語文法のクラスは初めてなので毎週このクラスが一番楽しみです。逆に聞き取りの授業が一番大変だと感じています。自分の語彙の足りなさももちろん原因の一つですが、聞き取りの題材のビデオが正フランス語では



なく、ケベックのフランス語なので正フランス語以上に聞き取りの練習が必要だなと感じています。

クラスは今第5週目あたりで、三分の一が終わったところです。今回僕は半期の留学ですが、せっかくクラスになれてきたころにはもう5回分クラスが終わっているし、なんだかもったいないなと、半期の留学は少ない気がしています。ちゃんと成績がでるか、少し不安なところもありますが、残りの期間、精一杯自分のベストを尽くしていきたいと思っています。

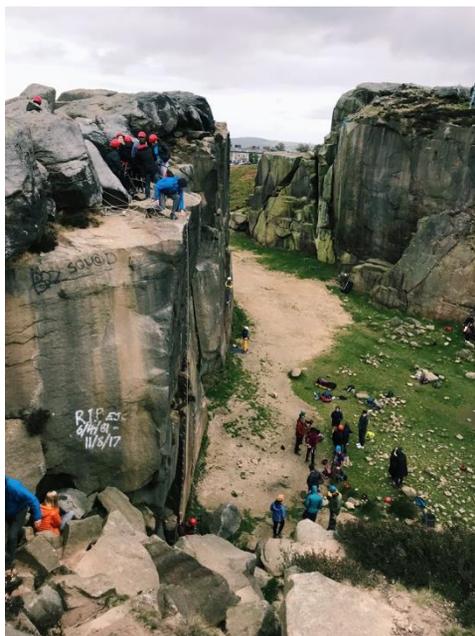


リーズ大学（イギリス）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科マネジメントコース 3年 荒木 ひかり
【語学プラス交換留学】 留学期間：2018年4月～2019年1月

マネジメント創造学部3年、現在イギリスにあるリーズ大学に留学中の荒木ひかりです。今年の四月からリーズでの留学生活を始め、残り半分を切りました。十月に入り、こちらの気温は10度を下回る日も多くなっています。日本より一足先に冬の兆しを感じていますが、私は四月から来ているため激しい気温の変化にも順応できているように感じます。さて中間報告として、今までの留学生活（授業や日常生活）と残りのこれからの生活についてご報告します。

まず私は、四月から九月初旬にかけてリーズ大学の語学学校に通っていました。語学学校は大きく分けて、四月から六月中旬と七月から九月にかけての二学期に分かれていました。基本的にどちらの学期も九月下旬から始まる大学の学部授業に向けての準備内容でした。主に、エッセイの書き方（文章構成や参考文献）、セミナー（グループに分かれて授業内容を議論する授業）やプレゼンテーションなどの練習を実践的に学びました。プレゼンテーションに関しては、これまでCUBEの授業で行ってきた個人プレゼンやグループプレゼンの経験を活かし、プレゼン準備、他のメンバーの手助けなどを積極的に取り組めたと思います。今までのプレゼンと違った点は、グループメンバーが多国籍のため英語で話し合いを進めるのはもちろんですが、異なる意見や考え方が多く、一つの意見にまとめることが容易ではなかったことです。しかし、このような経験は今後の学部授業の場で活かせるだけでなく、私自身の考え方も広がったように思います。また学習面以外にもこれまでの寮生活を振り返ると、留学前に想像していたよりも生活しやすく、フラットメイトも皆いい人ばかりで毎日充実した日々を過ごしています。寮生活の思い出の一つとして、印象的なことは三度の引っ越しを経験したことです。主な理由は語学学校が続くにも関わらず、寮の契約が終了してしまうことでした。引っ越しが重なることはあまり気が進むことではありませんでした。フラットが変わると人との出会いがさらに増え、イギリスだけでなく世界各地に友達ができ、プラス面につながったので良かったと感じています。



今月、十月に入り学部授業がスタートしました。一週目はレクチャーのみでしたが、これからセミナーやグループプレゼンテーションなどが始まります。日本の授業と比べると、英語で授業を受けているため復習はもちろんですが、予習も重要になっていきます。上記で挙げたセミナーやプレゼンなどに積極的に参加できるように個人学習に取り組んでいきたいと思っています。留学生月も残り4ヶ月になりました。悔いのない留学生活にするため、毎日新しいことを吸収する姿勢を忘れずに精進していきたいと思っています。



リーズ大学（イギリス）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科マネジメントコース 3年 横山 幸俊

【語学プラス交換留学】 留学期間：2018年4月～2019年1月



昔からフットボールが好きだったからかもしれませんが、留学前からイギリスという国に対しては深い関心がありました。また、留学するなら絶対にイギリスと強く思っていたため、イギリス英語の勉強だけでなく、イギリスの文化や歴史の知識についても準備をしてここへやってきました。そしていま思うことは、留学するまでの準備が今の自分を形成しているということです。準備してきたからこそ得られるものは多くあります。同時に、準備してきたからこそ意外と世間に知られていないイギリスの側面についても肌で感じることもできたと思います。あくまでも僕の経験を基に、今回は世間に知られていないイギリスの意外な側面について歴史的背景に結び付けながらレポートを書きたいと思います。主に2つのことを印象深く感じました。

1つ目は、アメリカ英語は嫌われるということです。ご存知の方は多いかと思われませんが、私たち日本人が受けてきた英語教育のすべてはアメリカ英語です。ここには第2次世界大戦後にアメリカに支配されていた背景があります。また、一部の日本語はアメリカ英語が基本となって日本語化してしまったものも多くみられます。例えばエレベーターです。多くの方はこの単語が英語だと思っていますが、イギリスでこの英語は通じません。同時にアメリカ英語をイギリス人の前でしゃべると、彼らは軽蔑し、少し態度が冷たくなるのです。言葉だけでなく発音や文法でも状況は同じです。では、なぜ彼らはアメリカ英語を嫌うのかというと、聞き取りにくいという理由が一番目立っていました。また多くの日本人もこの2つの英語の大きな違いの要因として、アメリカ英語は聞き取りにくいと感じた人は少なからずいるかと思えます。そもそもイギリス英語は単語を明確に発するのが特徴的な英語です。イギリスには様々な人種がいるため、アメリカ英語のような固定化した言語はイギリスにはありません。かつて世界を支配していた国だったからこそ、主に言葉を明確に発することによって、長い年月をかけてどこの国の人でも理解できる英語を形成していったのかもしれませんが、言葉は似たようなものですが、嫌われる要因はほかにもあるように感じられます。それは次のパートへと繋がってきます。

2つ目は、人種差別はいまだに存在するということです。この言葉を聞いて「白人と黒人どうし間の差別」と思い浮かべる人は多いかと思われれます。しかし、イギリスでの実際の人種差別は「白人第一主義」のように感じました。つまり私たちアジア人も差別の対象なのです。実際に多くのイギリスの幅広い年代の方から話を聞き経験したのですが、イギリス国内では黒人やアジア人が入れないパブが多くあり、目に見えない境界線によって有色人種は出入りを禁止されているように思われます。



また、リーズ郊外に行けば白人のみの町がある一方、黒人や中東系とアジア人しか住んでいない町もあるのが現実です。つまり、彼らの多くは帝国主義の考え方が根付いており、いまだに有色人種に対して強い反感を抱いているように思われます。このレポートを読んでいる多くの人は、イギリスに対して消極的な意見を持つかと思われませんが、このパートで僕が言いたいことは、日本人だけは人種差別の対象にならないということです。これには、日本がイギリスと同じような帝国主義の道を歩み、アジアで優位を築いてきた歴史的背景と日本人の礼儀に対する質の高さがここでの人種差別の障壁を越えるように思われます。このことも実際に耳にした話であり、同時に経験したことです。レストランやバーでの場面が印象的に残っています。最初は中国人に間違えられ質素な扱いを受けていたのですが、相手が日本人だとわかると偏見のまなざしがなくなるのです。そして社交的に接してくれ、彼らなりの最大限のおもてなしを受けたりしました。すべてのイギリス人が人種差別をしていることや、日本人に対して好意的であるということは定かではありませんが、僕の得た経験から考えてみると、歴史的背景が人種差別に対して大きな影響を及ぼしていることは事実といってもおかしくはないでしょう。

一見、僕の文章は消極的ではある一方、他の留学生が感じれなかったことを述べているように感じます。アメリカ英語はイギリス人に嫌われるという噂は聞いてはいましたが、ここまで軽蔑されるとは予想外でした。また人種差別に関して、もし僕が日本人ではなかったら今の留學生活での自由は極端に制限されていたように感じます。そして上記の2つに共通していえることは歴史的背景が大きな要因をなしているということです。グローバル化により伝統といったものが失われつつある世の中ですが、歴史という語り継がれてきたものは、いまだに言語と人種に対して現在でも影響を及ぼしているように思われます。つまり、歴史は語るといっても過言ではありません。もしこのレポートを読んでいる人で、イギリス留学を考えているのであれば、必ず歴史を勉強してから行くべきだと思います。そして日本人としての自覚を持って規律を崩さず、充実した留學生活を送ってくれればと思います。以上を持って中間報告とさせていただきます。



リーズ大学（イギリス）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科マネジメントコース 3年 原田 理央

【語学プラス交換留学】留学期間：2018年4月～2019年1月

リーズに到着してから約半年が経ちました。

語学学校では、最初の二か月間はサウジアラビやクウェートから来ている生徒が多い印象でした。アラブ人独特の訛りがあるのでグループディスカッションで聞き取れないことがよくありました。エッセイの構成の考え方や参考文献の書き方などの授業によってwritingに対しての苦手意識がなくなりました。休み明けの語学学校は、アラブから来ていた生徒たちは自分の国に帰り中国人が増えました。この時期は、現地の学生たちは皆実家に帰ってしまっていたため、リーズはまるでイギリスとは思えないくらいたくさん中国人がいたように思います。新しいタームでの語学学校の授業は、前のタームと比べて少し物足りないように感じました。また、自分たちと比べて皆若かったので、グループで作業を行う際に意見の食い違いや少し気になる行動も見られたので注意したこともありました。



語学学校での授業の様子



マレーシア人のフラットメイトのお母さんとおばあちゃんがきてくれました

この半年間で契約期間の関係で、3回寮の引っ越しをしました。また、今いる寮の契約終了日から次の寮の契約開始日までなぜか2週間ほどあいてるということもありました。契約日を変更してほしいと問い合わせてもどちらの寮にも断られてしまったので、あまり融通はきかないと思います。初めの寮での生活では、火事や水漏れなど日本では経験したことのないことばかり起き、寮内のイギリス人も夜中まで盛り上がるので寝れないことが多かったです。しかしすぐに慣れたので、今では外から大声が聞こえても特に気になりません。夏の期間での寮では、アジ

ア人のフラットメイトがいたため、前よりも安心感がありました。また、とてもフレンドリーなフラットメイトだったので、お互いの国の料理を食べあう機会もあり、とても楽しかったです。

休み期間中は日本からは行きにくいような国を旅行しました。特に、アイスランドが自分の中では1番良くお勧めです。ヨーロッパの国はたくさん協会や歴史的建造物が多いのですが、アイスランドのように自然に囲まれている国は珍しいと思いました。世界一大きいと言われている温泉にも入ることができました。他にもデンマーク、ドイツ、ベルギー、フランス、マルタに行きました。国内旅行感覚ですぐに行けるので（パスポートを忘れてしまったこともありましたが…）これもイギリスのよさだと思えます。

交換部分の授業がはじまって約1週間経ちましたが、語学学校とは比べ物にならないくらい難しいです。予習復習が絶対に欠かせません。帰国まで4か月、悔いの残らないような留学生活を送りたいです。



中国人との火鍋パーティー

リーズ大学（イギリス）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科特別留学コース 2年 安藤 紬
【交換留学】留学期間：2018年9月～2019年6月



イギリスに到着してから20日ほどしか経過していないため、生活、学習面で特筆することはあまりないのですが、現時点での様々な体験について書いていきたいと思います。

まず最初に、同じ学部の友人がロンドンに滞在しており3日間一緒にロンドン観光をするということで、リーズに直接行かずにヘルシンキ経由でヒースロー空港に到着しました。ロンドン塔やナショナルギャラリー、アルバートホールでのコンサート鑑賞等、現地の市場や建造物を楽しみながら観光することができました。移動手段として地下鉄やタクシーを利用しましたが、特に地下鉄は一人では無理だっただろうなという複雑さでした。さらに日本ほど地下鉄にエレベーターが整備されていないことが多く、今回のように留学の大荷物で階段は降りられないので少し高くてもタクシーでの移動がより確実に到着することができます。

ロンドン中心からリーズの¥5000ほどの列車を事前に予約していたので約2時間でリーズに到着しました。私の寮(Mary Morris House)はリーズ大学直系の寮の中でも町の中心から徒歩1時間

はかかる遠いところにありますが、比較的静かな森の中の築2年の綺麗な寮で、近所に生活用品や食料を購入することができるスーパーもあるので快適だと思います。

私が前期で履修している科目は20～30人程度の小規模クラスがメインです。授業が始まって間もないのでまだ模索しているところですが、分からないことは授業後でも先生に直接聞くと丁寧に教えてくださるので大丈夫です。様々な面で分からないことが多すぎて、こういう時にCUBEの友達がひとりでもいたらなんと何度も思いますが、そんな苦境が先生やほかの学生と話す機会になってくれるので前向きにとらえています。今のところ大学や町でも日本人はあまり見かけておらず、いたとしても日本人と日本語しか話していないので、なるべく英語圏の人々とコンタクトをとり、自分ができるところまで英語だけで頑張ろうと思っています。

しかし、今まで学んできたアメリカ英語とイギリス英語は発音や単語がかなり違うように感じます。スピーキングにはそれなりの自信があるのですがただでさえリスニング力が弱いので会話が成り立ちません。私自身イギリス英語に関しては無知のままこちらに着き、同じ寮のイギリス人の子達が何を話しているのかすら分からないことが多いので尚更努力せねばならない状況です。とはいえ、相手の言っていることを理解してあげられないことで悲しい思いもしたりとそれなりにストレスもあるので、そんな時は他大学に留学して同じように頑張っている友達と電話をしたりSNSで連絡を取り合うことでリフレッシュしています。今では寮の友達と共通の趣味を見つけたり、お互いのことについて話したりする一方で、家事を分担する等、程よい距離感で仲良くできていると思います。



リヨン第三大学（フランス）
経営学部経営学科 3年 宮原 優哉
【交換留学】留学期間：2018年8月～2019年1月



私は今リヨン第三大学に留学しています。フランスに来てからは1ヵ月半が経ち、こちらの生活にも慣れ充実した日々をすごしています。ただこの充実した日々がフランスに着いた初日から過ごせていたわけではありません。元々フランス語を学びたいという気持ちで留学したのではないため、フランス語でコミュニケーションが取れる程の語学力もありませんでした。着いてからの一週間は本当に大変で、特に契約のことでとても困り沢山の人に助けられました。充実してきたのはフランスでの様々な契約が終了し気持ちが落ち着いた頃でした。留学する前とフランスに来てから大きく変化したものが二つあります。まず一つは時間です。日本にいたときは大学の授業や留学の為の資金集めなど暇な時間など全くというほどありませんでした。フランスに来てからは逆に時間が余るって程時間があり日本と違った時間の使い方が出来ます。自分自身と向き合う時間を作ることや将来について考えることや昔から好きだった料理に時間を割くことが出来ていて時間を日本とは全く違うことに使えているのは自分にとってとてもプラスになっています。

二つ目は自分が外国人という立場で生活するという事です。日本で生活していたら一生経験できないことで、日本にいたときでも留学先に行ったら外国人という立場になるとは想像していたのですが、実際に来てみると想像以上でした。フランス語が話せなければもちろん相手と会話することは出来ませんし、人によってはフランス語が話せないから君はあかん、みたいなことも言われたこともありましたが、しかし自分から積極的に助けを求めるとフランス語が話せなくても手伝ってもらえました。日本にいる時から大切なことでしたが、留学に来てからは特に主体性ってことを意識して動くようになりました。また留学にきたからこそ出会った自分とは違った価値観を持っている人に出会ったことも本当に留学で得られた財産とも思います。自分は正直フランス語を学びに来たわけではないので、フランスで生活する日常がこれからの自分にどう活かしていけるのかというのを考えて一日一日すごしています。留学行っているのに語学がメインではないのかと思われるかもしれませんが、フランス語を学びたいだけであれば日本で勉強していれば良いと思うし、留学の目的、目標は留學生の数だけあると思います。僕は残りの留学期間を僕なりに充実させ少しでも成長して留學生活に区切りをつけたいとおもいます。



漢陽大学（韓国）
文学部人間科学科 3年 天野 沙都
【交換留学】留学期間：2018年8月～2019年2月



初めての海外生活、初めて親元を離れての生活に不安はありましたが、その不安は必要ありませんでした。

私は寮で生活していますが、その寮の中でも韓国人ルームメイトと一緒に生活するというプログラムに参加しました。留学期間中、韓国人と一緒に毎日同じ部屋で過ごすプログラムです。また、ルームメイトだけでなくこのプログラムに参加した韓国人の人たちと遊びに行くという企画もありました。

文化の違いがあるので初めは少し不安でしたがすぐに打ち解けることができ、毎日一緒にご飯を食べたり、遊びに行ったりと現地のことを詳しく知ることができました。また、常に韓国語で会話するためかなり実力が早く伸びたように感じました。韓国語を教えてもらうだけでなく日本語を教えてあげたり、日本の文化など日本についてもたくさん考え、話す時間が多かったです。毎日本当にたくさん話をしています。わからないことはルームメイトが真剣に一緒に考えてくれたり調べてくれるので今まで困ったことは全くなかったです。ルームメイトだけでなく韓国人の人は困っている人がいればすぐに声をかけてくれるので人の温かさに触れる機会が多かったです。

語学堂の授業は少人数制で、レベル分けテストの結果で細かくクラスが分けられるため、本当に自分に合ったレベルの授業を受けれている感じがしました。みんな一生懸命学びたくて来ているので授業中の意見や発言も多く、その意見も真剣に聞いてくれるため発言しやすくとても受けやすく、楽しい授業でした。それぞれの国の文化について聞かれることも多く、韓国語だけでなく他国の事についても知ることができました。月曜日

から金曜日まで毎日4時間ありますが、隣の人と会話練習をしたりお互いの文化について韓国語で説明したり、発表や映画を見たりする時間もあり、座学だけではなかったため一瞬で過ぎていく感じがしました。そして、私が留学して驚いたことは分からない単語があっても辞書で調べないでと言われたことです。辞書を引く時間があったくない、その間に話している先生の言葉を聞き逃してしまうからという日本では経験したことない授業スタイルでした。分からない単語は辞書で引くのではなく先生や友達に直接その場で聞くことを徹底された授業だったため、聞き逃すこともなく分からないことはその日の授業のうちに解決することができました。また、その度に友達とのコミュニケーションも取れるため教室の中の友達と自然に話すこともできました。

また、漢陽大学は留学生のためのプログラムが多く、漢陽大学に在籍している韓国人の方と話す機会や留学生も入ることができるサークル、バディなど現地の友達を作りやすい環境が整っています。現地の人と多く話すことで会話力や聞き取る力も授業以外で身につけることができ、すごく恵まれた環境だと実感しました。

留学をしてまだそんなに長く経っていませんが既に帰りたくないという気持ちもあり、勉強すればするほど楽しいと感じるようになりました。毎日韓国語を話して生活しているため来た時よりも実力が伸びていることも実感できますし毎日充実した日々を送っています。



漢陽大学（韓国）
文学部人間科学科 3年 熊野 世梨
【交換留学】留学期間：2018年8月～2019年2月



八月末に日本を出発してから約一カ月が経ちました。やっと韓国での生活にも慣れてきました。最初は大変なことが多かったです。寮に入居する時に結核診断書が必要だと言われ、保健所に結核検査を受けに行きました。保健所では日本語は対応していないので、つたない韓国語で何とか受け取ることが出来ました。寮や学校生活の説明を受ける時も韓国語か英語での説明なので、聞き取ることが大変でした。留学生と韓国の学生がペアになるバディという制度があるのですが、手違いで私のバディが組まれておらず急遽バディが決まるといったこともありました。しかし、ゆっくりでも相手に伝えたいことを伝えることで対処できた事は大きな自信となりました。私の下手な韓国語を必死に理解して助けてくれた韓国の方々の優しさにたくさん触れました。



今は寮の二人部屋に韓国人のルームメイトと住んでいます。韓国人と同じ部屋を希望できるプログラムがあり、そこに参加しました。ルームメイトは日本語が上手で、毎日一緒に勉強出来るのでとても楽しいです。お互い日本と韓国の文化の違いや歴史について興味があり、意見を交換できるので、プログラムに参加して良かったと思います。また困ったことがあればすぐに相談できるのもいい点だと思います。週末や授業が終わると一緒に遊んだりご飯を食べたりします。

授業は語学堂で韓国語の授業のみ受けています。クラスは少人数制で、国籍や年齢が様々です。クラスの半分は中国人で日本人は私一人です。少人数制なので、クラスの雰囲気も良く、発言や質問がしやすい環境です。韓国の大学に入学するために来ている学生がほとんどで、勉強に対する意欲に驚きました。韓国だけでなく日本に対しても興味のある学生が多いので、たくさん質問してくれ、日本語を教えて欲しいと言ってくれる人が多くいます。課題は毎日あり、何度か発表もあります。今は中間試験に備えて勉強を頑張っています。

やはり生活面で日本と異なることは多いですが、文化の違いに触れることが何よりも大変で面白いです。一ヶ月ではありますが、始めよりも聞き取りや会話が上達しました。生活にも慣れ、休日にはバスや地下鉄を利用して積極的に出掛けるようにしています。残りの韓国での生活も今より充実させて成長出来るようにしたいと思います。



東義大学（韓国）
経済学部経済学科 4年 吉見 哲也
【交換留学】留学期間：2018年2月～12月



韓国に留学してから7ヶ月が過ぎ、秋を迎え肌寒い季節になってきました。留学して来た頃は、かろうじて会話をできる程度でしたが今は80%以上理解でき、日本語のできない韓国人の友達とも気を遣うことなく、遊んだり生活できるほどに成長することができました。



最初は、とにかく韓国人の人と韓国語でコミュニケーションを取れば良いという目標でしたが、いつの間にかもっと韓国人みたいに話せるようになりたいと感じるようになりました。勉強するにつれて、文法や発音などの韓国語の難しさも知り、今がちょうど韓国語の壁の前にいる感覚です。ですが、壁にぶちあたったからと言って諦めるのではなく、継続して勉強したり、発音したりを繰り返して、壁を乗り越えてやるという気持ちが強いのです。そういう気持ちになれているのも、ルームメイトや友達、先生方の暖かいサポートのおかげです。韓国語の表現の仕方等は、自分で勉強してもわからないことが数多くあり、韓国人に質問をして解決し、それをまた会話

の中で使って反復して覚えることで少しずつ自分のものにできてきました。勉強をすることは正直言って嫌いな私でさえも、毎日楽しく生活しながら勉強をし勉強の楽しさというのを知ることができました。

生活面では、平日は学校があるため授業と復習をし、週末には友達と遊ぶ生活をしています。留学に来る前からやりたいと思っていたことですが、いろいろなことに挑戦したいと考えており、イベント行事やボランティア、発表など日本にいるときにはあまりやらなかったことも韓国に来て積極的に参加するようになりました。その結果、生活面で積極的に行動できたり、人とのつながりが多くなり、語学面でも、生活面で増えた人とのつながりを生かして多くの韓国人と韓国語で会話することで韓国語の能力向上へと繋がるようになりました。

残り3ヶ月の生活では、新たな挑戦や友達作りというよりも、今ある関係をより深い関係にしていき、留学が終わった後のこれからの未来にも韓国語を使う機会が続くようにしたいと考えております。今は平日は勉強、週末は遊ぶといったメリハリのある生活をできているので、残り3ヶ月もしっかり勉強して、しっかり遊び、後悔のない留学期間にするために1日1日を大切に過ごしていこうと思います。



厦門大学（中国）
経営学部経営学科 2年 浅尾 渚
【交換留学】留学期間：2018年9月～2019年1月



私は2年生の後期から半年間、中国の厦門大学に留学しています。留学のきっかけは、2つあります。1つ目は、中国人の子に勉強を教えることができなかつたことです。私は、小学生に勉強を教えるアルバイトをしています。その中に中国人の子供も多く、日本語が上手な子供達が多いです。しかし中には日本語が苦手な子もあり、その子達が勉強で困っている時に、「どうしたの?」とその一言も言えないもどかしさを感じ、中国語を話したいと思いました。2つ目は、将来中国の方々と一緒に働きたいと思ったからです。私は2

年生の前期にアジアと経営論という講義を受けました。その講義は日本・中国企業の相違点を趣旨とした講義で、この講義を受けている中で、中国人の勤勉さ、物の考え方などが日本人と全く違うことに衝撃を受けました。受講後、中国への興味が一層湧き、将来一緒に働きたいと感じました。

私は第2外国語で中国語を学んでいたのですが、実際に使う機会がなかつたこともあり、身に付いていませんでした。その為、留学当初は全く聞き取れませんでした。例えば、来中当初、携帯電話が使えないという問題が発生しました。その為、現地の銀行開設も出来ず、途方に暮れていました。しかし、どこの国に行っても「助け合いの精神」というのが存在するのか、中国人、黒人の方、ヨーロッパの方など多くの外国人の方が言葉が通じない中でも助けて下さいました。私は、助けてくれた彼らに成長した姿を見せたいと思い、中国語だけでなく英語も取得しようと日々勉強しています。

***後輩へのメッセージ**

留学先でトラブルがあると、日本という住みやすく環境の良いところに帰りたと思う時があるかもしれませんが、しかし笑顔をかきさないこと、通じなくてもいいから取り敢えず話しかけることを繰り返していれば乗り越えられる問題も多いので、挫けず頑張ってください。

***自分のレベルで学習できる**

厦門大学の海外教育学院では、初日にテストが行われ、レベル別にクラスを割り振ってもらえるので、自分にあった学習ができます。最初は分からずじまいでも1ヶ月も経つと聞き取れるようになるので楽しいです。

***普段できないことを**

私の大学内では、24時間空いているグラウンドやカフェがあります。週末に友達と運動したりお茶を飲みながら会話を楽しむことができます。

また、中国は名所も多く、大型連休には授業で覚えた単語や文法を使って旅行をより楽しむことも出来ています。

